

# 「初冬から早春にかけて武蔵野の風趣は凛として静かに美しい。」

向井潤吉「武蔵野昨今」[「マンスリー東武 第252号」]1970年

武蔵野は、古く万葉の時代に詠まれ、その風趣は徳富蘆花や国木田独歩といった明治の文豪たちにも好まれてきました。戦後全国を訪ね歩き、草屋根の民家のある風景を描きつづけた向井潤吉(1901-1995)もまた、武蔵野を愛した画家の一人です。1933(昭和8)年に世田谷区弦巻にアトリエを構えた向井にとって、東京や埼玉近郊は最も身近な取材地でした。

広い空の下、樺や樺などの雑木林や、足下に生い茂る叢、それらに囲まれるように佇む草屋根の民家——。そうした、自然と調和した人々の素朴な暮らしの風景に心を惹かれ、向井は足しげく通いつづけました。また、高速道路の整備などにともない、そうした風景が急速に姿を消していく中、向井は荒川を越えて秩父方面へも取材の範囲を広げていきました。

本展では、東京、埼玉近郊で描かれた風景を中心に、その周辺も含めた作品をご紹介します。武蔵野の面影を色濃く残すアトリエ館の庭もあわせて、お楽しみください。



世田谷の自邸の庭にて 1981年頃

## 向井潤吉 武蔵野の面影を求めて



《新雪》[埼玉県秩父市寺尾] 1988年



《春塘》[埼玉県川越市郊外] 1984年



《武蔵野の丘陵》[埼玉県比企郡嵐山町] 1974年



《秋夕枯色》[埼玉県秩父市] 制作年不詳



《叢中の梅》[埼玉県東松山市神戸] 1987年

### イベント情報

#### 3分館リレーギャラリートーク

区内3ヶ所に点在する世田谷美術館の分館で、同日、時間をずらして各館担当芸員が解説を行います。この機会に分館めぐりはいかがでしょうか。

日時 10月8日(土)

11時～ 向井潤吉アトリエ館

14時～ 宮本三郎記念美術館

16時～ 清川泰次記念ギャラリー

※いずれも15分程度、参加費無料(観覧料別途)、事前申込不要  
※移動は各自。1館のみでも参加できます

### 世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1  
TEL.03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

#### 【交通案内】

東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分 / 東急世田谷線「松陰神社前」駅 徒歩17分 / 東急バス(渋05)渋谷駅～弦巻営業所「駒沢中学校」徒歩3分 / 東急バス(等11)祖師ヶ谷大蔵駅～等々力操車所「駒沢三丁目」徒歩3分 / 東急バス(渋11)渋谷駅～田園調布駅「駒沢大学駅前」徒歩10分 / 東急バス(渋12)渋谷駅～二子玉川駅・高津営業所「駒沢大学駅前」徒歩10分



© 宮本和義

### 世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17  
TEL.03-3416-1202  
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

新収蔵作品を中心にII 清川泰次 線と色の交錯  
8月6日(土)～12月4日(日)



© 宮本和義

### 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13  
TEL.03-5483-3836  
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

宮本三郎の戦後——再出発と深まる境地への道  
8月6日(土)～12月4日(日)



© 宮本和義



### 世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL.03-3415-6011(代表)  
【展覧会のご案内】 TEL.03-5777-8600(ハローダイヤル)

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

\*詳細はホームページなどでご確認ください。

### 同時開催展

#### 企画展

ミュージアムコレクションII

ミュージアムコレクションIII

アルバレス・ブラボ写真展——メキシコ、静かなる光と時 7月2日(土)～8月28日(日)

志村ふくみ——母衣への帰郷 9月10日(土)～11月6日(日)

開館30周年記念 コレクションの5つの物語 11月19日(土)～2017年1月29日(日)

神話の森 美と神々の世界 7月23日(土)～10月23日(日)

ぜんぶ1986年——世田谷美術館の開館とともに 11月5日(土)～2017年4月9日(日)